

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

2026 年 1 月 30 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 藤 洋 作 様

所 属 部 局 総合生存学館

職 名 教授

氏 名 池田 裕一

|            |  |   |             |
|------------|--|---|-------------|
| 助 成 の 種 類  | 令和 7 年度 ・ 国際会議開催助成   |   |             |
| 国 際 会 議 名  | Blockchain Kaigi 2025  |   |             |
| 開 催 期 間    | 2025年 12月 4日 〜 2025 年 12月 6日   |   |             |
| 開 催 場 所    | IIT,Bombay(インド)  |   |             |
| 参 加 者      | 総 数<br><br>121名  | 内 訳 参加者:80名<br>運営チーム:15名<br>学生奨学金対象者:20名<br>基調講演／招待講演者:6名 |             |
| 成 果 の 概 要  | タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度で作成し、添付して下さい。<br>「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(プログラム、フライヤー ) |   |             |
| 会 計 報 告    | 事業に要した経費総額   | 2,477,244 円   |             |
|            | うち当財団からの助成額  | 930,000 円   |             |
|            | その他の資金の出所  | 参加費、Ripple Impact Fund                                    |             |
|            | 経 費 の 内 訳 と 助 成 金 の 使 途 に つ い て  |   |             |
|            | 費 目  | 金 額 (円)   | 財団助成充当額 (円) |
|            | 招へい者外国旅費(4名分)  | 960,000   | 930,000     |
|            | 記念品等(手提げ袋、名札等)   | 238,700   |             |
|            | 昼食代(3日間)   | 292,600   |             |
|            | カンファレンスディナー  | 248,710   |             |
|            | 論文集  | 308,000   |             |
| 学生奨学金      | 203,434  |   |             |
| その他        | 225,800  |   |             |
| 当財団の助成について | (今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)<br><br>京都大学教育研究振興財団からの助成金なしには、国際会議BCK25の開催は実現しませんでした。改めて心より深い感謝を申し上げます。                   |   |             |

## Blockchain Kaigi 2025 成果の概要

京都大学大学院・総合生存学館 池田裕一

国際会議 Blockchain Kaigi 2025 (BCK25) を、2025 年 12 月 4 日～2025 年 12 月 6 日の三日間にわたり、インド工科大学ボンベイ校にて開催した。

参加者は約 80 名、運営関係者は約 15 名、基調講演者は 2 名、招待講演者は 4 名であった。一般講演の申し込み数は 57 名、このうち数名を除き一定水準に達していない講演はポスター発表として、26 名の一般講演を行った。この他に、12 月 6 日には二つのパネルディスカッションを行うなど、全体として非常に活発な国際会議となった。以下の写真は、12 月 5 日のティーブレイクの際に撮影したものである。インド工科大学の大学院生や若手研究者を含む、第 1 線のブロックチェーン研究者の様子がよく分かる。

12 月 6 日の閉会の辞で、来年の BCK26 を東京にて開催する発表を行った際には、多くの参加者が来年も参加したい旨の発言があった。閉会後も多くの若手研究者から本国際会議について質問や建設的意見が出され、関心の高さを実感した。現在、ポスター発表を含むすべての講演者からプロシーディング論文の投稿を受け付け中である。投稿された論文について、厳正な査読を経た論文が、日本物理学会のプロシーディングス論文誌（オンライン）に掲載される予定である。

京都大学教育研究振興財団からの助成金なしには、国際会議 BCK25 の開催は実現しなかった。ここに、運営組織委員会を代表して、改めて心より深い感謝を申し上げる。

